

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2022年2月25日(臨時号)

今月のトピックス 「オミクロン株を甘く見てはいけない」

2 月中旬以降、政府は新型コロナの感染者数がピークアウトした可能性があるとしている。先駆けてまん延防止重点措置が導入された沖縄、山口のほか、山形、島根、大分の5県は2月20日に同措置が解除となり、新型コロナに伴う規制の解除に向けた体制に変わりつつある。年度末や年度初めは卒業や入学(入社)などの歓送迎に伴うイベントが増えるため、規制の解除はうれしい限りだが規制を緩めるのが本当に良いのか疑問が残る。3月のコラム記事は少しでも明るい話題を提供しようと思案している時に、知人から「オミクロン株を甘く見ない方がよい、足下の感染者減はPCR検査数の減少によるところが大きい」と言われたからだ。知人の一言が気になり、改めて新型コロナの感染者数などを厚生労働省のHPなどで調べてみた。

調べてみるとメディアの報道と大きく乖離している部分があるので緊急コラムを執筆した次第である。なお、筆者は医療の専門家ではないのでその点は割り引いてもらいたい(あくまでも統計データからの分析)。新型コロナの1日あたりの感染者数は2月10日の9万9629人でピークをつけ、2月22日には6万9523人に減少している。7日間平均でも1月24日~7万5534人、1月31日~8万2612人、2月7日~8万1925人、2月14日~8万1582人と減少速度は遅いものの、感染者数はピークアウトした感もある。ところがPCRの検査件数を見ると、7日間平均で1月24日~28万9001件、1月31日~27万5052件、2月7日(6日間平均)~25万1711件と万単位で減少しているのである。コラム執筆時点で検査件数は2月12日までしか公表されていないが、1日あたりの検査能力件数は39万4522件あるにもかかわらずだ。検査件数が減少しているのはPCR検査キットが不足しているのに他ならないのだが、気になるのは陽性率の高さ。1月24日~1日平均の陽性率は26.1%、1月31日~30.03%、2月7日~32.54%(新規感染者数を6日間の平均検査数で除しているの誤差あり)と徐々に増加しているのである。平均ではなく1日で試算すると2月11日などは検査数20万9831に対して感染者数9万8319人なので陽性率は46.85%と2人に1人が感染者になる。残念ながら2月13日以降のPCR検査の総数が公表されていないため、陽性率を計算することはできないものの、諸外国と比較して陽性率が突出して高いのは事実である。陽性率46.85%というのは高すぎるので、30%、35%、40%で過去最もPCR検査数が高い7日平均28万9001件で計算すると感染者数は30%=8万6700人、35%=10万1150人、40%=11万5600人にもなる。感染者数だけで論じるのは勇み足かもしれないが、過去の経験則から言えば感染者増加 重症者増加 死亡者増加となる。そして足下の第6波では重症者は第5波を超えていないものの、死亡者は300人超えと過去最高を更新している。日本では37.5度以上の発熱がないと新型コロナの疑いがあっても医療機関の受診を断られてしまうのは報道の通り。ところがオミクロン株は増殖のスピードがデルタ株の約2倍と早いので、軽症から重症に移行する期間がわずか1~3日と短い。自宅療養を余儀なくされている感染者が急に重篤状態になったり、最悪死亡してしまうなど手遅れになるケースが多いようだ。経済との両立を考えれば、まん延防止などの新型コロナ規制は諸外国のように解除するべきだろうが、ブースター接種(3回目接種)が進んでいない点は大きく異なる。接種が進んでいないうちに規制解除を行うと4月以降に感染者の急増懸念が拭えない。異常に高い陽性率がノイズであることを願うばかりであると同時に、メディアはもっと統計データを精査(いたずらに不安を煽るのも考えものだが)して報道して欲しいものだ。